



滑川町長 大塚 信一氏

町長のメッセージ

滑川町は、埼玉県のほぼ中央に位置する首都近郊の町として発展してまいりました。2つの駅とインターチェンジが位置する交通利便性の高い地域でありながら、令和5年1月には古くから伝わる「比企丘陵の天水を利用した谷津沼農業システム」が日本農業遺産に認定されたように、豊かな自然と里山の姿を残す首都圏のオアシスとして、多くの方が移り住んできております。

今後も「住んでよかった 生まれてよかったまちへ 住まいるタウン滑川」を基本にピカッと輝く町を目指し、元気なまちづくりに引き続き取り組んでまいります。

はじめに

滑川町は、都心から60km圏、埼玉県のほぼ中央に位置し、北は熊谷市、東と南は東松山市、西は嵐山町に接している。

鉄道は、町の南端を東武東上線が東西に通り、森林公園駅、つきのわ駅の2つの駅が設置されている。東武東上線は東京メトロ有楽町線・副都心線と直通運転していることから、銀座や新宿・渋谷・横浜へも乗り換えなしでいくことができ、池袋駅までは約1時間と、都心へのアクセスがよい。森林公園駅は始発電車も多く、通勤・通学にも便利で、町へ移り住む人も多い。

道路は、関越自動車道の東松山ICと嵐山小川ICが近いことから、自動車の利便性も高い。

町の中央を町名の由来にもなっている滑川が、南東部を市野川が東西に流れ、滑川を境に北部はのどかな田園地帯が広がり、南部は新しい住宅地と工業団地が立地している。

町内には国営武蔵丘陵森林公園があり、訪れた方もいだろう。豊かな自然環境に包まれ、利便性も高く、たいへん暮らしやすいまちである。

自然環境あふれる学びの場を提供

滑川町では町内に小学校が3校あり、住宅の多い町の南部地域、中央部、自然豊かな北部地域にそれぞれ立地している。通学する小学校は、自宅に

近い通学区により指定されるのが一般的だが、町では北部地域に立地する、福田小学校周辺の豊かな自然環境と在校児童数の少なさを生かし、福田小学校を「特認校」として、通常の通学区以外からの通学を可能とする制度を昨年度から始めた。

福田小学校の就学の条件は、①町内に居住していること、②小規模特認校の教育活動およびPTA活動に賛同し、協力すること、③保護者の責任と負担において、児童が安全に通学できること、④原則、卒業まで就学すること、となっている。

福田小学校では、「一人一人のこどもを主語にする教育活動の推進」という考えのもと、こどもの発達段階に応じたきめ細やかな教育が行われている。また、自然豊かな学校周辺の探検や、古くから地域に伝わる谷津沼農業の体験など、自然や地域との交流を通じて、多様な学びが得られる場となっている。



福田小学校における体験授業

滑川町概要

人口(2025年4月1日現在)	19,752人
世帯数(同上)	8,490世帯
平均年齢(2025年1月1日現在)	44.6歳
面積	29.68km ²
製造業事業所数(経済構造実態調査)	43所
製造品出荷額等(同上)	1,195.2億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	82店
商品販売額(同上)	390.0億円
公共下水道普及率	56.3%
舗装率	49.2%

資料:「令和6年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 東武東上線 森林公園駅、つきのわ駅
- 関越自動車道 東松山ICから町役場まで約5km
嵐山小川ICから町役場まで約6km

充実した子育て支援策

町では子育て世帯の子育て環境の充実に対するニーズが高かったことから、自治体としては早く2011年4月から給食費の無償化を実施している。

無償化の対象範囲は、保育園や幼稚園、小・中学校に通う、園児(0～2歳児は除く)・児童・生徒の給食費となっている。実際に給食費の費用負担が生じている子育て世帯に対し、「平等・公平」に支援が受けられるように、幅広く制度設定されている。また、無償化の条件も、「町の子は町で育てる」という方針のもと、所得制限や町税等の滞納状況に関わらず、町内の居住要件のみとしている。町民目線でスタートした給食費の無償化は、若い転入世帯からも好評を得ており、町は人口流入による人口増や出生率の向上の要因のひとつになっていると推察している。

おいしい谷津田米

滑川町のある比企丘陵地域は、地形の高低差があるため、古くから河川より水を引くことが難しく、丘陵地に形成された谷状の地形である谷津に多数のため池を築くことで農業用水を確保してきた。1600年頃までに大小合わせて350以上にのぼるため池が築かれ、雨水や雪解け水など天水のみを水源とする限られた水が、精緻な配水システムを通して無駄なく利用されてきた。今でも、ため池下流域の谷

津田では稲作、谷津の斜面では少量多品種の畑作を中心とした農業が営まれている。河川からの導水を行わず、天水のみを水源とすることで、貴重な生態系の維持にもつながっている。

古くからのため池や配水システムを大事に使い、生態系の維持にもつながっていることから、「比企丘陵の天水を利用した谷津沼農業システム」は一昨年1月に「日本農業遺産」^(注)として認定された。

(注)我が国において、重要かつ伝統的な農林水産業が営まれ、固有の農文化や農業生物多様性が育まれている地域や農林水産業システムを、農林水産大臣が認定する制度

里山に包まれた冷たい沼の水、昼夜の寒暖差の大きい谷津田で作られる谷津田米は、大変おいしいと評判である。滑川町産の谷津田米はJA滑川農産物直売所で購入することができる。国営武蔵丘陵森林公園など、滑川町を訪れる際には、是非立ち寄ってほしい。

(太田富雄)



町内に広がる谷津田